

「オミックスの原理」研究会
"Omics Principles" Committee**開催趣旨:**

ゲノム解析技術の発展により種毎あるいは個人毎の全ゲノムは確実に得られるようになりました。そのことのインパクトは大きく、個々の遺伝子や変異などについて重要な情報が得られるようになりました。しかし、生物全体がどのように設計されているか? という原理は、依然分からない状態です。全ゲノムが次々と解析されている現在、「原理的な問題」が最も喫緊の課題と考え、この委員会を立ち上げました。今回の FS は、研究会のキックオフとして行うもので、多くの方々に参加していただきたいと思います。

モデレーター: 美宅 成樹 Shigeki Mitaku

名古屋大学名誉教授 Nagoya University, emeritus professor

広川 貴次 Takatsugu Hirokawa

産総研創薬プロファイリング研究センター

荻島 創一 Soichi Ogishima

東北大学未来型医療創成センター/東北メディカル・メガバンク機構

1. 設計図としての生物ゲノム配列の隠れた構造**美宅成樹 Shigeki Mitaku**

名古屋大学名誉教授 Nagoya University, emeritus professor

生物ゲノム配列は遺伝子の集合体となっています。それをゲノム配列の表の構造とすると、同じゲノム配列にはもう一つの裏の構造が隠されています。コード領域全体について、コードンの位置毎のヌクレオチド組成を見てみると、裏の構造が見えてきます。「生命」とはどういう状態か、「生物多様性」とは何か、「種」とは何かなどについて、このゲノムの裏の構造から議論したいと思います。

2. 創薬研究から考えるゲノム情報**広川 貴次 Takatsugu Hirokawa**

産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門

3. ヒト集団のデータから見るオミックスの原理の理解に向けて**荻島 創一 Soichi Ogishima**

東北大学未来型医療創成センター/東北メディカル・メガバンク機構